

平成25年度第2回こころに残る景観資源発掘プロジェクト
「こころに残る景観資源」指定物件（9件、樹木）
についての報告書

こころに残る景観資源 指定物件の紹介

■こころに残る景観資源

流木墓園の桜並木



応募者によるこころに残るエピソード

■先祖のお墓が、流木に有るせいでしょうか、小さい頃から、よく、両親に連れて行かれました。車が余り通らないのも良いですね。静かで広い公園のようです。墓地との仕切りは無いですが、そんなことは気にしない。青々した、芝生では無い、遊具も無い、でもこの広さがいい。春には、桜並木が大変綺麗。何処の観光地にも負けない。ここは、墓？と疑う位、賑やかになる。お弁当を広げる場所がないと、ドンドン、先に進みついには、よそ様の、お墓の階段に、腰を下ろす始末。本当に面白い光景です。この春も、弁当を持って出かけます。（50歳/男性）

■トンネル桜並木、岸和田では一番長くすばらしく美しいヤッホー。

岸和田の桜名所、いったい幾つあるんだと、岸和田住民になって最後に探し行きたい名所がここだったと、いまに思うよ。墓地は今のところ、関係ないと思いつつ、桜咲くとつい、足が向き、心がはじく。ここで味わった、華吹雪は忘れられない絶景、髪の毛染まり、顔花けしよう、心ウキウキ、お手手バンザイ、足さん浮足、通り抜け。（73歳/男性）

岸和田市景観審議会による講評文

流木墓園の桜並木は誰もが自由に通り抜けることができ、春には豊かな桜のトンネルをつくる。開花時期にはカメラを片手にたくさんの人が花見を楽しんでいる。また季節を問わず、桜並木は先祖の墓参りに訪れる多くの人の心に残り、世代を超えて岸和田市民に親しまれ愛されている。普段は鎮魂の場として、また桜の開花時は行楽の人々でにぎわう深く市民生活に溶け込んだ景観である

■ここに残る景観資源

岸和田城堀端の桜並木

所有者：岸和田市



応募者によるここに残るエピソード

私の住む町内の桜。

小さい頃の散歩は、やっぱりこの場所

七五三で岸城神社へお参りするときも、この場所で写真撮影

勿論、お正月も、中学・高校と学年が進んでも、この場所で撮影。(咲いていない時も)

桜を見ると、元気が出ます。これから訪れる季節に感謝する

日本人と桜は、切り離せない何かがある。優しい気持ちになる。

毎年、テレビで桜中継が、和歌山城、大阪城と盛ん

「岸和田城も有るのに」と心の中でつぶやく。

昨年終了した、HNK連続テレビ小説「カーネーション」

放送直後から、岸和田城を訪れる、観光客は多くなった。

私のふるさと、「岸和田市」 岸和田城を見られて、ちょっと照れくさい。

(50歳/男性)

岸和田市景観審議会による講評文

ランドマークである岸和田城と、堀端の桜並木が作り出す景観は、岸和田市の象徴であり、城周辺の良い景観をリードしている。開花時期には、「お城祭り」が催され、出店と花見を楽しむ多くの人々で賑わう。また、まちかど審査の結果では、写真とエピソードが共に最多の得票となり、市民の共感を得ている。



応募者によるここに残るエピソード

■中央公園は犬の散歩で毎日訪れますが、多くの木々が植えられており、季節の移り変わりが植物を通じて楽しめるのがいいですね。中でもこのポプラ並木はダイナミック。ポプラの微かな香りを感じながら、この大きな木の下を歩くと小さな悩みは、しばし忘れてしまいます。
(57 歳/女性)

■私の大好きな本に『木も大きな花を咲かせ、皆の心を楽しませてくれる。人間も何か人のためにならなければならない。』と。
中央公園の”ポプラ並木”。空高く緑したり、21 本が風に乗リウェーブを作る。葉の音律が笑っているような、歌っているような。八木橋を渡る瞬間、左前方が圧巻。
この道は”励ましの道”
(64 歳/女性)

岸和田市景観審議会による講評文

中央公園の外周には、隣接する住宅地の道路との境界に、ポプラが一直線に立ち並んでいる。全体として統一された樹容は目を引き、公園内で散歩やジョギング、そしてグラウンドゴルフを楽しむ人々をはじめ、多くの市民に広く親しまれている。



応募者によるここに残るエピソード

水中に生きる樹木、白鳥やカモ類、季節ごとに飛来する鳥たちが、シロヤナギが覆う水面で、はしゃぐ、一緒に遊ぶ人の子供たちも紫外線を避けられ、楽しく遊べる、感謝の樹木である。

この樹木を取り入れた担当者の気持ちが、わたしのここに残って来る鳥さんの喜びも心に響く、いつまでもいつまでも、このシロヤナギが生き生きとし、私たちも喜ばせてくれることを、シロヤナギさんに祈願する。蜻蛉池公園は鳥たちと、いつまでも人々の心に残る極楽の郷である。(73 歳/男性)

岸和田市景観審議会による講評文

ヤナギの木蔭では人々が憩う光景が見られ、市民生活の中で親しまれ愛されている水辺の景観となっている。またヤナギ付近では水鳥が泳ぐ光景が見られるなど、おだやかな自然を感じる樹木景観である。

■ここに残る景観資源

積川神社の棕と楠



応募者によるここに残るエピソード

■岸和田市、秋のだんじり祭で毎年賑わいます神輿とだんじり曳行の活気盛んな時や宮参りの積川神社境内に聳える（そびえる）樹木はおよそ樹齢800年のムクノキ、そして樹齢80年のクスノキなど。その他シイノキや数々大木の鎮守の森が有り、周辺には、大木を加工したベンチなど設置されている。憩いの広場で腰掛けて眺める壮観は誠に心が和みます。
(76 歳/男性)

■鳥居を挟んで大樹木。この姿に心踊らない参拝者はいないだろう。そしてその思いはここに残る、忘れられない人生、私の一生もムクノキの根元に座って、樹齢850年の歴史をここに収めたい。クスノキに登る、天まで登る力が！創造の世界に夢を見る。鳥居に覆いかぶさるクスノキの生命カームクノキ（No.31）に負けず、人生に目標と達成感が宿る。
(73 歳/男性)

岸和田市景観審議会による講評文

積川神社は1500年以上の昔、崇神天皇の時代に創立されたと伝わり、本殿は文化財保護法による重要文化財に指定されている。また前面は旧牛滝街道であり、鳥居を挟んでそびえる棕と楠は、神社の厳かな景観を形成し、多くの市民の目に触れる。また、積川神社は近隣住民にとっては10月祭礼などで馴染み深く、棕と楠もふるさとの原風景となっている。
※棕は市天然記念物（昭和41年指定）

■ここに残る景観資源

上町の楠



応募者によるここに残るエピソード

岸和田城天守閣より、東南約 500 メートルの古い民家の敷地内に植えられた 3 本の大きな楠を見ることができます。ここは、旧岸和田村池の尻新町の百姓 8 軒と呼ばれた地域で、現在の地図上でも、長方形のほぼ 8 等分された一区画で、他の地域とは違って曰くありげな地域です。

寛文 6 年（1666 年）、岸和田城主岡部行隆の時代に、城内を整備拡張する際、岸城神社の山側の『上町』に住んでいた百姓 8 軒を強制的に現在の新町に移転させました。この史実から、3 本のクスノキの樹齢は約 345 年と考えられ、新町の西北の境界線上に並んで植えられています。上町の古い民家は全て東南向きに建てられ、楠は民家の裏側を隠す役目もしているようです。新町周辺には計 5 本の楠が現存しています。古い民家に楠の古木はマッチしていました。大樹は空を覆い、樹上には鳥が巣を作り、強風が吹けばごうごうと唸り声をあげ、冬には大量の落ち葉を撒き散らし、夜間は人の通行も皆無でした。それが、禍してか、現在は全ての楠は上半身を刈り取られ、樹高が極端に低くなり、ほんの数メートルになった木もあり、寒々とした感じになっています。新町内のすべての道は狭く、人が一人通れるほどの幅でその上、新町の内外には約 20 箇所の枅形が設けられ迷路のようで外敵の侵入と行動を妨げるための防御施設であったと考えられます。楠も戦略上かの役目を果たしていたのかもしれません。

実際、新町を含む上町（池の尻・小寺）全体も南北両端を流れる古城川と西隅に位置する大池（おいけ）と山側の城が池、周囲の湿地帯に守られた岸和田城山手の防御線。要塞のようです。

また、地形・文献・伝承・隣接の古城跡の発掘調査などから、建武元年（1334）に名将、知将と呼ばれた楠正成の一族、和田高家が居城（砦）を構築したのは新町であり、岸和田のルーツはこの地であった可能性が高いと思われます。

（76 歳/男性）

岸和田市景観審議会による講評文

高くそびえるこの楠は、個人の住宅地内にありながら、20 メートルを超える高さがあり、道路からもよく見える。樹木の成長に合わせて、建築物の底を削るなど、お住まいの方の心配りがうかがえる。周辺地域の良好な住宅地の景観を特徴づける樹木として価値を有している。



応募者によるここに残るエピソード

古い街並みと坂道と石垣の街、阿間河滝が好きで時々散策に寄っている。その中でも特に好きなのが、この奥家の棕の樹。樹齢何百年の風格を漂わせている。大きな堅い樹皮に耳を寄せると心臓の鼓動のような音が聞こえる。太い幹や、逞しい根に触れていると力を頂けるようだ。岸和田の隠れた、パワースポットだ。

(67 歳/男性)

岸和田市景観審議会による講評文

写真は冬のものであるが、現地調査では葉が茂り苔が生えていて、より迫力があつた。阿間河滝町は岸和田の中でも、古くから石垣が連なる特徴のある町並みを形成しており、棕の大木が旧家の門前に堂々と枝を伸ばす姿は、岸和田の歴史的・文化的な景観を特徴づけている。

※市天然記念物（昭和 41 年指定）



応募者によるここに残るエピソード

大沢神社の 3 本の杉は、岸和田にもこんなに大きい杉があったのかという驚きとともに、見る者を敬虔な気持ちにさせてくれます。『いよやかの郷』へ訪れる際は一度立ち寄ってみて下さい。
(38 歳／男性)

岸和田市景観審議会による講評文

太くまっすぐな樹の幹は境内の奥まったところにあり、外の道路から簡単には見ることが出来ないが、鳥居をくぐり、奥の扉を開けると、祠を囲むように 3 本の杉の巨木がそびえたつ。大沢神社の杉は近隣住民が大切に守ってきたものであり、岸和田の歴史を考える上でも重要な樹木景観である。岸和田在住の方に、あまり知られておらず、改めて岸和田にこんな巨大な杉があったのかと再発見できる鎮守の森の景観である。

※市天然記念物（昭和 41 年指定）

■ここに残る景観資源

西向寺のいぶき



応募者によるここに残るエピソード

お寺の境内に入るとすぐ目に留まるこのカイツカイブキ。大きさもさることながら、うねるような幹が圧倒的な生命力を感じさせます。

(38 歳／男性)

岸和田市景観審議会による講評文

現地調査では、幹のダイナミックなうねりと、いぶきとしては、たぐい稀な大きさに、写真で見るとよりも生命力と迫力を感じた。また、巨木の枝を支える支柱も鋼製で組み立てられており、樹木の維持管理に所有者の配慮がうかがえる。

毎年いぶきを囲んで盆踊りが行われ、岸和田の民俗文化を支えるとともに、本堂などの境内の建築物とあわせて岸和田の歴史的・文化的な景観を創出している。

※市天然記念物（昭和 32 年指定）